

新基地建設反対名護共同センターニュース

「違法工事に手を貸すな！サンゴを殺すな！」 カヌー68艇、抗議船9隻から海上抗議行動



浜のテントで連帯集会

午後、浜のテントで連帯集会に120人が参加。土砂投入を許さず、知事に埋め立て承認「撤回」を求める決議を採択しました。



ヘリ基地反対協会は25日、新基地建設に反対する「第4回海上座り込み行動」を辺野古の海で実施。カヌー68艇、抗議船9隻の参加で展開しました。政府が県に対して8月17日から土砂を投入すると通告して以降、初めての大規模な海上抗議行動となりました。参加した市民は「違法工事に手を貸すな」、「土砂投入するな」などと書いたパネルなどを掲げ、工事関係者や海上保安庁の職員に訴えました。抗議船には、のべ170人が乗船しました。

「土砂投入は許さない！」

吉居名護市議候補も訴え
吉居俊平名護市議候補（25歳、右写真）も抗議船・平和丸に乗船しました。マイクを握り「数日前に名護市内の住民の作業所に海兵隊の流れ弾が着弾した。保健師として多くの赤ちゃんに接してきた私は、子どもたちの命と安全を脅かす基地の存在は許せない。新基地は絶対造らせない」と訴えました。



初めてのカヌーで感激
初めてカヌーで参加した女性は「参加してよかったです。感激しました」と話していました。

沖縄県内の基地反対のたたかいを交流 高江座り込み11周年集会に300人

東村高江のヘリパッド建設に反対する座り込みから11周年の報告会が24日、同村で開かれ300人が参加しました。石垣島や宮古島、伊江島、与那国島、辺野古など県内各地の軍事基地に反対するたたかいが交流され、「軍事拡大に抗議する共同声明」を採択しました。

昨年10月、高江の牧草地に大型ヘリが墜落炎上しましたが、その地主の西銘晃さんが当時の様子を生々しく報告。西銘さんは「駆けつけたとき、放射能もれもあると言われ怖かった。米軍ヘリもオスプレイも高江から出てほしい」と怒りを語っていました。



茨城県平和委員会中心に31人が沖縄連帯ツアー



6・23に合わせツアー 共同センターで学習

沖縄にとって特別な6・23にあわせ茨城県平和委員会が呼びかけた「沖縄に学ぶ連帯ツアー」の一行31人が23日から26日まで、沖縄県内各地を訪問しました。

24日は、伊江島を視察した後、名護共同センターで1時間学習しました。木村泉県平和委員会事務局長から「パワーポイントでの説明はよくわかりました。あのデータが欲しい」との要望が出されました。

海上抗議行動に参加

翌25日は、「海上座り込み」行動に参加。全員が抗議船3隻に分乗し、護岸工事現場付近で「違法工事は中止せよ」と声を上げました。

抗議船への乗船前に浜のテント前で、全員で記念写真を撮りました。（左写真）